

令和7年度 松本市立病院 経営評価委員会 議事録

日 時	令和7年11月17日(月) 18:30～
会 場	松本市立病院 2階 新棟会議室
出席者	<p>委員 長 小林 正典 様 松本市医師会 会長 副委員 長 齋藤 章 様 波田地区町会連合会 会長 委 員 両角 直子 様 長野県看護協会 常務理事 委 員 村岡 紳介 様 伊南行政組合昭和伊南総合病院 院長</p> <p>病院局 病院事業管理者 北野 喜良 院 長 佐藤 吉彦 副 院 長 桐井 靖 事 務 部 長 渡辺 敏明 看 護 部 長 山名 寿子 医 療 技 術 部 長 中林 徹雄 薬 剤 部 長 御子柴 雅樹 病 院 総 務 課 長 西山 隆之 病院総務課課長補佐 吉沢 武士 医事企画課課長補佐 波多腰 孝之(事務局) 医事企画課課長補佐 北澤 孝行 病 院 総 務 課 主 任 雨宮 洋絵 医 事 企 画 課 主 任 神田 彬文</p>
欠席者	<p>委 員 稲垣 卓也 様 総合会計事務所 Glory Bridge 代表 委 員 古旗 征子 様 松本ゾンタクラブ 会長</p>
公開非公開の別	■公開 □非公開 □部分公開
非公開の理由 (非公開の場合のみ)	
傍聴人	<p>信濃毎日新聞社 岡田 様 信濃毎日新聞社 田中 様 市民タイムス社 小口 様 医療タイムス社 武内 様</p>
次第	<p>1 開会 2 挨拶 3 会議事項 (1) 令和6年度松本市病院事業会計決算について (2) 公立病院経営強化プランの令和6年度評価について (3) 令和7年度上半期の経営状況について 4 その他</p>

1 開会

(波多腰課長補佐)

それでは定刻より早くなりますが、只今から令和7年度経営評価委員会を開会いたします。私は、委員長が選出されるまでの間、委員会の進行を務めさせていただきます医事企画課の波多腰でございます。よろしくお願いいたします。それでは、次第に沿いまして進めてまいります。松本市病院事業管理者北野喜良からご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

(北野病院事業管理者)

本日は大変お忙しいところご参集いただき誠にありがとうございます。本日は、令和6年度の実績と決算、それから今年度の上半期の経営状況について報告し、ご評価をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最近の医療情勢の変化はめまぐるしく、病院経営も厳しさを増しています。令和6年度の自治体病院の経営状況は 86%が赤字で、病床規模別にみると 400 床以上では 94%、200 床から 400 床未満では 95%、200 床未満では 79%が赤字と報告されています。今年度は物価高騰、人件費の増加により、さらに経営の厳しさは増していくと予測しています。これから報告させていただきますが、当院は令和6年度の経常収支比率 101%ということで、令和元年から6年連続で黒字を達成することができました。

皆さん新聞報道等で、ご存じだと思いますが、今年の4月に医療事故が発生し10月から分娩を廃止しています。市民の皆さんには不安を与えるとともにご心配をおかけしています。分娩廃止は病院の機能にも関わることであり、強化プランの見直しも必要と考えています。お手元にも資料をお配りしておりますが、松本市立病院経営強化プランは令和6年度から令和9年度までの4年間ですが、そのプランに沿って経営を強化して地域の医療ニーズに応え、安心安全な医療を提供するとともに、地域に根差した愛される病院づくりをしていく所存です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(波多腰課長補佐)

ありがとうございました。それでは、会議に先立ちまして委員の委嘱についてお願いを申し上げます。今回の選出につきましては、引き続きお願いする方、また今回新たに委員に選出された方もいらっしゃいます。委嘱状につきましては、あらかじめ席にお配りしてございます。時間の関係もございますので、これを以て委嘱状の交付に代えたいと存じますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

続いて委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと存じます。お手元に委員名簿がございますので、併せてご覧ください。それでは、名簿順に村岡先生から自己紹介をお願いいたします。

(村岡委員)

昭和伊南総合病院の院長の村岡紳介と申します。よろしくお願いいたします。

(小林委員長)

6月から松本市医師会の会長を務めさせていただいております小林と申します。よろしく
お願いいたします。

(両角委員)

長野県看護協会常務理事の両角と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

(齋藤副委員長)

昨年より波田地区町会連合会の会長を務めさせていただいております、齋藤と申します。
よろしくお願いいたします。

(波多腰課長補佐)

ありがとうございました。次にこの場をお借りして、市立病院の職員の自己紹介をいたし
ます。

(市立病院職員)

自己紹介

(波多腰課長補佐)

続いて、委員長、副委員長の選出についてお願いしたいと思います。委員長の選出につ
きましては、お手元の松本市立病院経営評価委員会設置要綱の規定によりまして、委員の
互選により、選出されることとなっております。昨年度は、委員長は松本市医師会会長様、副
委員長は波田地区町会連合会会長様に就任をいただいております。みなさまにお諮りした
いと思います。委員長の選出につきましては、どのようにしたらよろしいでしょうか。

(両角委員)

いつもと同様でよろしいですかね。

(波多腰課長補佐)

よろしいでしょうか。よろしければ、拍手を以って承認をお願いしたいと思います。

(委員会出席者)

拍手

(波多腰課長補佐)

ありがとうございます。ご承認いただきましたので、本委員会の委員長を小林委員にお願
いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。小林委員長には、設置要綱の第6条
の規定により、会議の議事を進行いただきますようお願いしたいと思います。それでは、
本日の会議の資料の確認と会議事項の内容について説明させていただきます。最初に、本
日の会議の次第、そして委員の名簿、設置要綱、それと会議の資料としまして、資料1の令
和6年度松本市病院事業会計決算について、資料2としまして松本市立病院経営強化プラ
ンの点検評価報告書、資料3としまして令和7年度上半期の経営状況についてお話しさせて

いただきます。以上でございますが、よろしいでしょうか。それでは、次第に沿って、会議事項に移りたいと思います。小林委員長にご挨拶をいただきまして、引き続き進行をお願いいたします。

(小林委員長)

皆様改めまして、こんにちは。ただいま委員長にご推挙いただきました小林です。私自身は、松本平の東の里山辺で内科の診療所をさせていただいております。松本市立病院経営評価委員長として、このような病院の経営に、お役に立てるのか非常に心許ないところがありますけれども、皆様のご協力のもと、精一杯務めさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

私事で恐縮ですが、東の端に住んでいますが、平成3年6月から平成4年の3月までの期間、当時の波田病院の内科に医師になって3年目で勤めさせていただきました。当時は1年弱でしたけれども、毎日40分くらいかけて通った記憶がありまして、高木元院長先生、中村前院長先生が若手でいらっしゃったときに非常にお世話になりました。そういった意味では、市立病院と名前は変わりましたが、非常に思い入れのある病院ですので、是非より良い方向に向かっていけばよろしいかなと思っております。

それでは、次第に沿いまして会議事項を進めてまいりたいと思います。会議事項 1 番の令和 6 年度松本市病院事業会計決算について、事務局から説明をお願いいたします。

3 会議事項

(病院総務課 雨宮)

資料説明

(小林委員長)

ありがとうございます。ただいまご説明がありましたけれども、何かご質問等はございますか。

(村岡委員)

大変素晴らしい結果を残されていると思います。自治体病院として長野県内で黒字だったのは松本市立病院さんだけだと伺っておりますので、大変頑張られたのだと思います。ひとつ質問ですけれども、人事院勧告は昨年度されていますか。

(佐藤院長)

はい、行っています。

(村岡委員)

それで、人件費が 7000 万くらい増加し、あと入院のベッドをしっかりと埋めているというところが黒字につながっていると思うのですけれども、どのようにご尽力されているのか教えていただければありがたいです。

(佐藤院長)

できるだけ紹介の患者さんを増やしていきたいということで、私だけでなく、診療部では訪問看護、地域連携室の看護師と一緒に各医院をあいさつ回りして「よろしく申し上げます」という形で、新患を増やす取組をしているということと、あとは健診などで疾患を拾い上げて、その患者さんをできるだけ当院で対応していくということを心がけております。

(村岡委員)

急性期病院としては、市内にいくつも大きなところがあるわけで、そのあたりの工夫が、やっぱりかなり苦勞されていると思います。私どものような田舎でもどこか離れてしまう者もたくさんおるものですから、そのあたり、どう新患確保に努めていくのかがうちの課題かなというふうに考えています。ありがとうございました。

(小林委員長)

村岡先生の病院の人件費率はどうでしょうか。

(村岡委員)

うちは58%でした。

(小林委員長)

これは令和6年度ということですけど、今年一年ごとに、普通に診療所とかもそうですが、物価高等の影響で人件費がどんどん上がっている状況です。今回は令和6年度の決算ですけども、今年度、来年度の物価高による影響の見込みとか、何かあればお聞かせいただきたいのですがいかがでしょうか。

(渡辺事務部長)

事務部長の渡辺です。公立病院として人事院勧告はひとつの要素になっております。今年度も人事院勧告は、大変高いレベルで出ましたけど、一応補正予算で対応していきたいと思います。また来年度は、このままいきますと、人事院勧告は高いところに行くのかなと思うのですが、病院経営がご存じのように非常に厳しい状況になっていまして、病院団体としても、人件費をしっかりと賄えるだけの診療報酬の改定といったものを国に要望していくこととなりますので、来年度の医療改定を見ながら、取り組んでまいりたいと思います。さらに来年度以降については、今しっかり見通せませんが、経費の方も少しずつ上がっていくかなと思いますので、それに対しても今後しっかり対応していきたいと思います。以上です。

(小林委員長)

ありがとうございました。その他何かございますか。

(齋藤副委員長)

この一般会計負担金っていうのはありますが、これは、山形とか塩尻とか、そういうところからの負担金もありますか。

(吉沢課長補佐)

病院総務課の吉沢と申します。よろしく願いいたします。松本市以外、近隣の市村からの負担金はいただいております。

(齋藤副委員長)

そうしますと、松本市からの負担金ということですが、これは国から来る交付税とかそういったものが全額でしょうか。

(吉沢課長補佐)

引き続きお答えさせていただきます。今おっしゃられたとおり、地方交付税というのも一つの原因になっておりますが、それが一般財源として市のほうに入って、他の税収と合わせて、市役所の財政部局と協議して決めた一般会計負担金のルールに基づいての繰出、我々からすると繰入ということになっております。

病院で、例えば建設を行うとか、医療機器を買ったりした時に、いわゆる借金・起債をしたときに、交付税措置率が何%というのはそれぞれ決まっております、その交付税措置された分については一般会計で一部を負担しています。当然、それだけだと金額はそれほど大きいことにはなりません、総務省には「こういうものに繰出ができる」というルールがありますので、それに基づいて算出をしているということになります。

(齋藤副委員長)

ありがとうございました。

(両角委員)

稼働率がすごく高く素晴らしいことだと思いますが、ベッドコントロールか何かで工夫されていることはありますか。救急車を断らないとか、どのようなベッドコントロールをして99%(令和7年1月と3月の感染6床を除いた場合の病床稼働率)まで上げたのでしょうか。

(山名看護部長)

看護部がベッドコントロールをしていますので回答させていただきます。各病棟師長、外来師長の下、それぞれの病棟の機能に合った形で受け入れています。あとは入退院や転棟は、緊急入院が多いので、事前になるべく計画を立ててベッドを空け、計画的に受入れをしています。

(両角委員)

救急車を断ることがないようにということでしょうか。

(佐藤院長)

そうですね。救急車もできるだけ受け入れるという形で不応需率を5%未満にするというのを目標にして取り組んでおります。

(両角委員)

わかりました、ありがとうございました。

(小林委員長)

他はよろしいでしょうか。今後の課題で訪問看護事業の利用者数の増加とありますが、現在、訪問看護をされている看護師さんはどのくらいいらっしゃいますか。

(山名看護部長)

今、7人ですが、やはり利用者を増やしていくにあたって、訪問看護を担う人材の育成が求められます。また、へき地は長い移動距離があります。へき地に行く前に、道中の利用者のお宅に伺うなど、なるべくロスがないようにするといった様々な工夫をしながら、効率化にも取り組んでいます。さらに病院内や外部の方に、訪問看護を利用していただくための周知・広報等をしております。

(小林委員長)

例えば、西側の山間部とかには行かれますか。奈川とか極端な話、大野川とかまで行く場合もありますか。

(山名看護部長)

利用者がいれば対応しますが、距離がありますので件数は少ないです。

(小林委員長)

担当ドクターは診療所の医師であることもあるし、病院の先生ということもありますか。

(山名看護部長)

はい。

(小林委員長)

わかりました。やはり収益を稼ぐばかりでなく、訪問看護も非常に大切なところだと思いますし、悩ましいところもあるとは思いますが、現状の取組についてはわかりました。他はよろしいでしょうか。

続きまして会議事項2番の公立病院経営強化プランの令和6年度評価について、事務局から説明をお願いいたします。

(医事企画課 神田)

資料説明

(小林委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明に何かご質問等はございませんか。令和6年度の実績ということ、また先ほどの話で分娩廃止ということになり、今後の動向が変わってくるということはあるかもしれません。地域医療構想等を踏まえた、果たすべき役割機能ということですが、ちょうど今年が2025年ということで、当初の地域医療構想の一応着地点でしょうか。今後、新しい地域医療構想で回復期機能を包括期機能とするという話が出ています

が、そのことに関して、今後の展望として何か話し合いみたいなものは行われているでしょうか。

(佐藤院長)

今年度からの話合いになります。

(小林委員長)

とりあえずは、今までの流れに沿ってということですね。では、先生方何かございますか。

(村岡委員)

今、医師数は何人いらっしゃいますか。

(佐藤院長)

27人です。

(村岡委員)

診療所への派遣をされていますよね。毎日誰が、どんな感じで行っておられますか。

(佐藤院長)

月曜と水曜は檜川診療所へ1名ずつ、あとは奈川診療所に1名ずつ外来に行っており、看護師が月曜から金曜まで常駐しています。それと大野川診療所に前院長の中村医師が隔週で行っています。

(村岡委員)

少ない人数でやりくりされていますね。大変じゃないですか。

(佐藤院長)

そこは診療部長が何とか組んでおります。

(桐井診療部長)

診療部長の桐井です。なかなか人を出すのが大変で、総合診療の外来にも交代で出ていただいたりもしています。それから、働き方改革で振休を必ず取りましょうと呼びかけ、少し苦労しましたが、一応、自由に休みを取得できる前提で、人を回すことが出来ております。

(小林委員長)

医師数は27であったのは常勤の先生ってということで、標榜の診療科は27といっぱいありますけど、大学病院からパートの先生がいらっしゃるのでしょうか。

(佐藤院長)

ここにある多くの診療科には信大からパートで来られている先生がいます。

(小林委員長)

実際パートで勤務されている先生方というのは、だいたい皆さん週1回くらいずつでしょうか。

(佐藤院長)

ほとんどの先生は週1回ずつ来られています。

(村岡委員)

あと医師確保はどこからのドクターでしょうか。紹介会社でしょうか。

(佐藤院長)

最近、当院は紹介会社を使わず、信大からパートで来られている先生の中から常勤で働きたいという先生にお願いしたりとか、当院で働いている医師の同級生ですとか、そういった伝手で確保しております。

(小林委員長)

今、自治医大の先生はいらっしゃいますか。

(佐藤院長)

外科の医師は、自治医大出身の先生で揃えております。

(小林委員長)

そのほかに何かございますか。

(齋藤副委員長)

今、上高地とかかなり観光客が多くなっていますけれども、そういった方々の救急患者さんは多くなっているものですか。

(桐井診療部長)

診療部長の桐井です。数として正確には出していませんが、以前から観光客の搬送というのは夜間休日が多いです。比較的手広く受け入れている状況です。

(佐藤院長)

上高地からは 30～40 分かかりますので、まずはうちの病院でなるべく受け入れていきます。

(齋藤副委員長)

そうですね。信大や相澤ではちょっと遠すぎますよね。

(両角委員)

患者満足度調査について、昨年度より悪くなっていますけれども、入院と外来ともに職員

の対応が悪いというのは具体的にはどのようなことでしょうか。

(山名看護部長)

本当に声を吸い上げて改善していかなくてはいけないのですが、感謝の声もある一方で、一部対応が悪いという声もあります。反省をしながら、取組をしていきます。

(両角委員)

メディエーターの方とかはいらっしゃいますか。

(山名看護部長)

こちらでは医療相談室にあります。また患者さんやご家族の方に対して、師長がラウンドして、意見を拾い上げるようなことをしています。

(両角委員)

こういったことに関しては、どうしても看護師だけじゃないとは思いますが。

(山名看護部長)

大切なことですので引き続き取り組んでいきます。

(小林委員長)

他は何かございますか。収支に関しましては、人件費のことが一番大きいと思うのですが、物価高や色々なことでもご苦労されていると思います。人件費以外のところで、何か対策や工夫といったものを皆で協同して取り組まれていることはありますか。

(渡辺事務部長)

事務部長の渡辺です。昨年に比べると手術が十数パーセント増えました。先ほど 300 床以上、400 床以上の大きな病院が 95% 赤字というお話もありましたが、それは、やはり材料費も上がってきているということです。当院は高度急性期の病院ではないものですから、影響はそれほどではないかもしれません。当院では、診療材料とか消耗品を検討する委員会を院内でつくっています。これは臨床工学技士をリーダーにして、現場でいろいろな流れが分かっている人たちが他社の同等品を比べたり、コストダウンのために新しいものを採用したり、あるいはベンチマークといいまして、他のいろいろな病院とデータを比べて、当院がどのぐらいのレベルにあるのかといったようなことも研究しながら、材料費の値段を下げていくという工夫をしています。また、薬剤についても、見積もり合わせの方法をいろいろと検討するとか、少しでも安くできるように研究しているところです。

(小林委員長)

ありがとうございます。本当にこれは悩ましく、どこの医療機関でも本当に共通の問題だと思います。他はよろしいでしょうか。

(齋藤副委員長)

外来の方へ、私も何回か午前中にかけて電話がつながりにくいということがあったのですが、やはり少し電話で待つことが結構あると思うので、そういう小さいことを改善するために回線数を増やしたりすることが大切だと思うのですが、いかがでしょうか。改善の考えはあるのでしょうか。

(西山総務課長)

病院総務課長の西山と申します。電話の回線数につきましては、現在、契約数については変更の考えはございません。というのは、朝の集中する時間に皆さんおかけになるものですから、その一定時間内に集中してしまうと、その時間だけ繋がらないことが発生してしまいます。そこで、病棟で予約の問い合わせについては午後にしていただくとか、目的に応じて、「この時間に電話をかけてください」という意識を広げています。また回線数をピーク時に合わせて設定してしまいますと、経費面で非常に厳しい状況になってしまいます。例えば直通番号のあるところについては、直通番号をご案内することで、ピークに集中しないように、手配をしているところでございます。私からは以上です。

(小林委員長)

電話の回線は、本当に他の病院でも悩ましい問題で、当然電話を受ける人の人件費ということもありますし、信大病院あたりもなかなか回線費用は安くなく、紹介で予約希望の方は FAX を推奨していると伺いましたが、非常に悩ましい問題であるかと思います。他はよろしいでしょうか。

それでは続きまして、会議事項3番の令和7年度上半期の経営状況について、事務局から説明をお願いいたします。

(医事企画課 神田)

資料説明

(小林委員長)

ありがとうございました。この件に関しまして、何かご質問等はございますか。入院患者数等々、昨年度の上半期と比べて減っているというところですかね。そこら辺については、どんな解釈でしょうか。

(佐藤院長)

そうですね。ちょっとまだはっきりしたことは分からないところもございます。

(小林委員長)

もちろん何か流行したとかしないとか、いろいろなものが絡んではくると思いますから、簡単には言えないと思います。

(渡辺事務部長)

よろしいでしょうか。入院患者の動向ですけれども、ただいまご説明しましたこの上半期の経営状況を見ていただくと、下の方に紹介率、逆紹介率という値がありますが、こちらに

については、前の年度に比べて増えております。これは、地域のかかりつけの先生方との連携を強化しているということで、ご紹介でいただく患者さんというのは、おそらく前の年より増えています。ところが、救急車のところを見ていただくと不応需は減ったのですが、救急車の受入れ件数が36件減ってしまっていて、いわゆるこの緊急入院の患者が減っているということになります。

患者さんの入院にコントロールできる、できないというのはあまりないのですが、いわゆる紹介患者というのは、病院にとってはコントロールできる部分でありまして、救急車の受入れをはじめとする緊急の入院というのは、なかなかコントロールできない部分であります。コントロールできない部分というのは、気候変動とか、いろいろな要素があって、ここがなかなか分からない部分なのですが、そういうことで、この上半期については病院として、なかなかコントロールできない部分で患者さんがあまり増えていかなかったということがあります。今後、寒くなりまして、病院というのは冬場に結構患者さんが増えますので、この11月ぐらいからは徐々に患者が増えているということでございます。下半期は、救急車を断らないように、また病棟の方もなるべく効率的に運用して、患者さんをしっかり確保していきたいというふうに考えています。以上です。

(小林委員長)

ありがとうございました。他に何かございますか。

その分娩に関しては、上半期はまだ数としては載ってくるわけですけど、下半期は全く載らない形になりますか。

(佐藤院長)

今年度の分娩は8月が最終になっています。それ以降の分娩はありませんので、下半期ゼロという計算です。

(小林委員長)

それについて、経営状況に与える影響っていうのはどう考えているのでしょうか。

(渡辺事務部長)

おっしゃるとおり、分娩がなくなることによって、収入という面では、少なくとも数千万は減ってきます。看護師や助産師は、これまで混合病棟で勤務いただきましたので、引き続き一般患者さんの受入れという形で、今後、勤務いただくということになります。まだ年度が終わらないのではっきり分かりませんが、今申しあげたように、少なくとも収入の面ではそういう形で、少しマイナスの影響が出てくると考えています。

(小林委員長)

ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。

(両角委員)

訪問看護の件数がすごく伸びているから、人員を補充したのでしょうか。7人でやってらっしゃいますが、いかがでしょうか。

(山名看護部長)

そうですね。これからも育成していきたいと思います。

(小林委員長)

令和6年度から人員を補充して7人になったのですか。ずっと6年度は7人でしょうか。

(山名看護部長)

そうですね。令和6年度も7人体制です。

(両角委員)

同じ人員で700件増やすというのは難しいですよ。

(小林委員長)

そうですね。なかなか難しいですよ。他はよろしいでしょうか。

それでは会議事項として挙げられている3項目について、様々なご意見をいただきましてありがとうございました。なお、本日の会議の中で、すべて集約化するということは時間的にも困難ですので、いただいたご意見を事務局の方で整理しまして、後日郵送して内容を確認していただくこととしたいと思います。

それでは、最後に4のその他、全体を通じて何かございますか。これは、今回の市立病院経営評価委員会では、令和6年度と7年度の上半期が中心ということですが、今11月になって、いろいろな動きがあって、新市立病院の建設基本計画の見直しというような新聞記事も出たこともありますので、なかなか現状で、当然ながら、方向性については分からないと思いますけれども、現時点で何かコメントいただけますか。市長さんのご意向待ちというところかもしれませんが、いかがでしょうか。

(渡辺事務部長)

市長も記者会見等で申し上げておりますけれども、一応、できれば令和7年度中に一定の方向性が出るように見直しの検討をしていきたいと考えております。元々の建設計画には、分娩について、ずっと継続して提供していくというふうに書かれていますので、少なくともその部分については変更せざるを得ないということになります。その辺を中心に改めて検討していきたいと考えています。また、地域医療構想についても、新しいものが策定されるということで、その地域医療構想や、あるいは長野県が提唱していますグランドデザイン、これらと建設計画がどのように整合をするかということについて、点検・評価していきたいと考えています。以上です。

(小林委員長)

ありがとうございました。その他何かございますか。

(齋藤副委員長)

すみません、ちょっと野暮な質問ですけど、こういった取組を大変一生懸命されているよ

うに感じられますが、赤字が少しでも出ると、方向性というのは苦しいものになるのでしょうか。

(渡辺事務部長)

やはり公立病院は、この強化プランに謳っていますが、政策的医療ということで様々な医療を提供しています。それについては、なかなか採算の難しい部分があります。例えば、医療的ケア児とかです。こちらは当院の方で、継続的にサポートしているような部分があって、へき地の診療も先ほど出ましたが、これらのなかなか採算に乗らないような部分についても公立病院としては取り組み、それについては繰出もいただいています。多少赤字になっても、やはりそういう部分は、公立病院としてしっかりと医療提供して欲しいというのが、いろんな方々の共通の認識かなと思っています。

市立病院は、折しも 2、3 年前のコロナの時に、感染症指定医療機関として市民の皆さんを守るために、必死になって感染症と闘ってきたという歴史があって、全国的にもコロナ禍を契機に公立病院の存在意義というものが再評価されつつあります。今後、いろいろと経費が増えてきたり、人件費が上がってきたりするなかで、さらに病院経営が苦しくなってくるので、病院の経営もしっかり改善しなければいけないのですが、仮にそういったところでなかなか採算がうまく乗らなかったとしても、やはりこの医療というのは地域の皆さんを守る、地域を支える、いわゆるインフラであって、これを無くしてしまうというのは、到底考えられないということになります。開設者である松本市と歩調を合わせて、この西部地域唯一の公立病院である、ここをなんとか守っていき、持続的に医療が提供できるように、今後も一生懸命頑張っていきたいというふうに考えています。以上です。

(小林委員長)

ありがとうございました。他によろしいでしょうか。

長時間にわたりまして、ありがとうございました。予定した会議事項は終了としまして、進行を事務局へお返ししたいと思います。

(波多腰課長補佐)

ありがとうございました。委員長からもありましたように、本日いただきましたご意見につきましては、経営評価委員会の議事録として取りまとめをいたしまして、後日、委員の皆様にもメール等でお送りできればと思っておりますので、またご確認をいただきたいと思っております。では、佐藤院長から閉会の言葉を申し上げます。

(佐藤院長)

本日は長い時間、当院の経営評価委員会に参加いただきまして、なおかつこの詳細なデータに目をとおしていただき、それぞれ貴重な意見をいただきまして、誠にありがとうございました。先ほどお示しましたように、当院は、この自治体病院の経営が厳しいという中で、去年は本当に努力というか、地域の連携を深めるとか、あとは職員の頑張りによって何とか黒字達成できました。今年も昨年より若干低下している部分がありまして、これだけでも黒字を維持するのは難しいなという状態になっておりますけれども、またこれから下半期に向かって患者さんをしっかりと診療して、公立病院としての機能を果たしつつ、できるだけ赤字

の部分も減らせるように努力していきたいと思っております。これから新たな地域医療構想に示されております、この「治し支える医療」というのは、当院の今後担うべき役割ではないかと思っております。地域のニーズに合わせて当院の診療機能もしっかり充実させていきたいと思っておりますので、これからもご支援のほどよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

(以上閉会)